

岡本市長

新年のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。
令和4年の年頭にあたり、岡本市長に昨
年の振り返りと今後の取り組みについて聞
きました。



令和3年を振り返って

昨年は、コロナ（新型コロナウイルス感染症）に始まって、コロナに終わった一年でした。

市民の皆さんの命や暮らしを守るために、皆さんと一緒に知恵を絞った一年だったと思います。

◆新型コロナウイルス感染症対策

コロナ対策では、第一に、地域経済対策に取り組みました。コロナ禍によって大きなダメージを受けてい



感染症対策を啓発する横断幕とバスマスク

る業種に対して、国や県からの支援に加えて、市がサポートをする形で各種施策を行いました。市民の皆さんにもプレミアム付食券などを利用して地域経済を支えていただき、地域全体でコロナ禍に負けない伊賀市のために取り組めたと思います。
次に取り組んだことは、ワクチン接種です。11月末現在、市内で2回目の接種を終えた人が85%以上になり、これから3回目の接種も本格的に始まります。感染者数はかなり落ち着いた状況にありますが、気の緩みが一番の大敵です。これからも私たち一人ひとりが感染症対策を行い、「新しい生活様式」を心がけていかなければなりません。



市内飲食店の感染症対策をパトロールする岡本市長

また市では、新しい時代に向けて「DX（デジタルトランスフォーメーション・デジタル変革）」を一つの大きな柱としています。スマートフォンやマイナンバーなどを活用することで、市役所に行かなくてもさまざまな手続きが簡単に行えるように進めています。市民の皆さんにとってより便利になり、行政のスムーズ化や感染症対策にもつながります。

DXの大事な部分は「誰一人取り残さない」という視点です。今後一人ひとりにしっかりとサポートを行い、皆さんの暮らしが便利になるように取り組みたいと考えています。



インターネット上で協定を締結する様子

◆「子ども、暮らし、ごわい」への取り組み

「暮らし、ごわい」は、新型コロナウイルス感染症対策と関連して取り組んできました。「子ども」についても、保育環境の整備や、小中学校でのタブレット端末の導入などに取り組み、地域の宝である子どもを安心して産み育てることができるよう、各種施策を進めてきました。



タブレット端末を活用した授業の様子

その他にも、厳しい生活環境の中にある子どもたちにとって、しっかりと栄養バランスのとれた食事ができるのは学校給食だけという場合もあるのではないかと思います。子育て世帯の経済的な負担を減らすため、学校給食の無償化についても検討を重ねて、実現していきたいと思

今年の取り組みについて

課題はたくさんありますが、今年度は地域経済をしっかりと立て直すことを第一に取り組むべきだと考えています。

それと同時に、地域を取り巻く課題の解決に取り組み、行政と地域・圏域の方向性をしっかりと合わせ、実情に沿った制度・システムに改善していく努力をしていきたいと思

また伊賀市だけでなく、近隣自治体や定住自立圏との新たな連携も考えていく一年にしたいものです。



IGA NINJA WEEK 2021の一場面

皆さんへメッセージ

私たちにとってより良く、安心して豊かに暮らせる伊賀市をつくるのは行政の組織だけではできません。年齢や性別にかかわらず、この地域に暮らすすべての人が一丸となって頑張っていくということが、これからますます大切になります。

今年、市が行っている事業の第三者による見直しをします。どんな事業を継続してしっかり進めるべきか、どんな事業を整理していくべきかについて答申が出されますので、ぜひ市民の皆さんも関心を持っていただきたいと思います。

◆「新たな日常」に向けて

伊賀市にはたくさんのポテンシャル（潜在能力）があります。豊かな自然や歴史文化、おいしい食べ物はもちろん、大都会にそこそこの近い位置にあります。これからどこにいても仕事ができる時代になれば、こんなに魅力的なところは他にないのではないのでしょうか。

そんな伊賀市の良いところを生かしていくために、地域のにぎわいづくりや人口減少などの課題に取り組み、市民の皆さんと一緒に素晴らしい伊賀市をつくっていききたいと思